

1

(1) $f(x) = 2\sin^2 x + 4\sin x + 3(1 - 2\sin^2 x) = -4\sin^2 x + 4\sin x + 3$
 $= -4t^2 + 4t + 3$

(2) $0 \leq x < 2\pi$ であるから $-1 \leq t \leq 1$

$g(t) = -4t^2 + 4t + 3$ とおくと $g(t) = -4\left(t - \frac{1}{2}\right)^2 + 4$

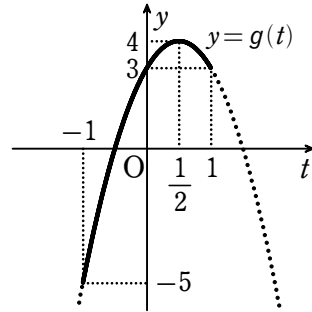
よって、 $g(t)$ すなわち $f(x)$ は、 $t = \frac{1}{2}$ すなわち

$\sin x = \frac{1}{2}$ のとき最大値 4 をとり、 $t = -1$ すなわち

$\sin x = -1$ のとき最小値 -5 をとる。

$\sin x = \frac{1}{2}$ のとき $x = \frac{\pi}{6}, \frac{5\pi}{6}$

$\sin x = -1$ のとき $x = \frac{3\pi}{2}$



(3) $\sin x = t$ …… ① を満たす $x (0 \leq x < 2\pi)$ の個数は次のようになる。

$-1 < t < 1$ のとき 2 個

$t = -1, 1$ のとき 1 個

$t < -1, 1 < t$ のとき ① を満たす x は存在しない

よって、 $f(x) = a$ が異なる 4 個の解をもつ条件は、 $g(t) = a$ が $-1 < t < 1$ の範囲で異なる 2 個の解をもつことである。

$y = g(t)$ のグラフから、求める a の値の範囲は $3 < a < 4$

2

(1) $y = \frac{1}{2}x^2 - 3a, y = -\frac{1}{2}x^2 + 2ax - a^3 - a^2$ から y を消去して整理すると

$x^2 - 2ax + a^3 + a^2 - 3a = 0$ …… ①

$y = \frac{1}{2}x^2 - 3a, y = -\frac{1}{2}x^2 + 2ax - a^3 - a^2$ が異なる 2 点で交わるから、 x の 2 次方程式 ① は異なる 2 つの実数解をもつ。

よって、① の判別式 D について $D > 0$

$\frac{D}{4} = a^2 - (a^3 + a^2 - 3a) = -a^3 + 3a = -a(a^2 - 3) > 0$

$a > 0$ であるから $a^2 - 3 < 0$ これを解くと $-\sqrt{3} < a < \sqrt{3}$

$a > 0$ であるから $0 < a < \sqrt{3}$

(2) 2 次方程式 ① の解を $\alpha, \beta (\alpha < \beta)$ とおくと

$$\begin{aligned} S(a) &= \int_{\alpha}^{\beta} \left\{ -\frac{1}{2}x^2 + 2ax - a^3 - a^2 - \left(\frac{1}{2}x^2 - 3a \right) \right\} dx \\ &= -\int_{\alpha}^{\beta} (x - \alpha)(x - \beta) dx = \frac{1}{6}(\beta - \alpha)^3 \\ &= \frac{1}{6}\{(\beta - \alpha)^2\}^{\frac{3}{2}} = \frac{1}{6}\{(\alpha + \beta)^2 - 4\alpha\beta\}^{\frac{3}{2}} \end{aligned}$$

ここで、解と係数の関係から $\alpha + \beta = 2a, \alpha\beta = a^3 + a^2 - 3a$

よって $S(a) = \frac{1}{6}\{(2a)^2 - 4(a^3 + a^2 - 3a)\}^{\frac{3}{2}} = \frac{1}{6} \cdot 4^{\frac{3}{2}}(3a - a^3)^{\frac{3}{2}} = \frac{4}{3}(3a - a^3)^{\frac{3}{2}}$

(3) $f(a) = 3a - a^3$ とおくと $f'(a) = 3 - 3a^2 = -3(a + 1)(a - 1)$

$f'(a) = 0$ とすると $a = -1, 1$

$0 < a < \sqrt{3}$ における $f(a)$ の増減表は右のようになる。

よって、 $f(a)$ は $a = 1$ のとき最大値 2 をとる。

$f(a)$ が最大となると、 $S(a)$ も最大となる。

$S(1) = \frac{4}{3} \times 2^{\frac{3}{2}} = \frac{8\sqrt{2}}{3}$

よって、 $S(a)$ は $a = 1$ のとき最大値 $\frac{8\sqrt{2}}{3}$ をとる。

a	0	...	1	...	$\sqrt{3}$
$f'(a)$		+	0	-	
$f(a)$		↗	2	↘	

3

(1) 袋の中にある白球の個数は $10 - 6 = 4$ (個)

よって $P_{10} = \frac{{}_6C_3 \cdot {}_4C_3}{{}_{10}C_6} = \frac{8}{21}$

(2) $P_n = \frac{{}_6C_3 \cdot {}_{n-6}C_3}{{}_n C_6}$, $P_{n+1} = \frac{{}_6C_3 \cdot {}_{n-5}C_3}{{}_{n+1} C_6}$ であるから

$$\frac{P_{n+1}}{P_n} = \frac{{}_6C_3 \cdot {}_{n-5}C_3}{{}_{n+1}C_6} \cdot \frac{{}_n C_6}{{}_6C_3 \cdot {}_{n-6}C_3} = \frac{(n-5)(n-5)}{(n+1)(n-8)} = \frac{(n-5)^2}{(n+1)(n-8)}$$

(3) $\frac{P_{n+1}}{P_n} > 1$ とすると, (2) から $\frac{(n-5)^2}{(n+1)(n-8)} > 1$

$n \geq 9$ より, $n - 8 > 0$ であるから $(n-5)^2 > (n+1)(n-8)$

よって $-3n + 33 > 0$

ゆえに $n < 11$

$\frac{P_{n+1}}{P_n} = 1$ とすると $n = 11$

$\frac{P_{n+1}}{P_n} < 1$ とすると $n > 11$

以上から $P_9 < P_{10} < P_{11} = P_{12}$, $P_{12} > P_{13} > \dots$

よって, P_n が最大となる n は $n = 11, 12$

4

(1) $\overrightarrow{RS} = \overrightarrow{OS} - \overrightarrow{OR} = \frac{1}{2}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} - \frac{1}{4}\vec{a} = \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b}$

$\overrightarrow{RT} = \overrightarrow{OT} - \overrightarrow{OR} = \frac{1}{10}\vec{c} - \frac{1}{4}\vec{a} = -\frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{10}\vec{c}$

(2) $\overrightarrow{RP} = \overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OR} = (1-t)\vec{b} + t\vec{c} - \frac{1}{4}\vec{a}$
 $= -\frac{1}{4}\vec{a} + (1-t)\vec{b} + t\vec{c}$

(3) 点 P が 3 点 R, S, T で決まる平面上にあるから

$\overrightarrow{RP} = \alpha\overrightarrow{RS} + \beta\overrightarrow{RT}$ (α, β は実数) とおける.

よって

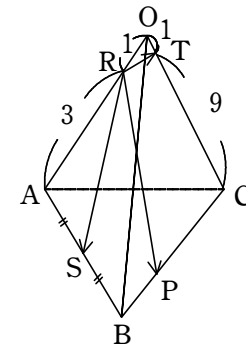
$-\frac{1}{4}\vec{a} + (1-t)\vec{b} + t\vec{c} = \frac{\alpha}{4}\vec{a} + \frac{\alpha}{2}\vec{b} - \frac{\beta}{4}\vec{a} + \frac{\beta}{10}\vec{c}$

$-\frac{1}{4}\vec{a} + (1-t)\vec{b} + t\vec{c} = \left(\frac{\alpha-\beta}{4}\right)\vec{a} + \frac{\alpha}{2}\vec{b} + \frac{\beta}{10}\vec{c}$ (α, β は定数)

とおける. ここで $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ は四面体の 3 辺で表されるベクトルだから

$-\frac{1}{4} = \frac{\alpha-\beta}{4}$ ①, $1-t = \frac{\alpha}{2}$ ②, $t = \frac{\beta}{10}$ ③

①, ②, ③ から $t = \frac{1}{4}$, $\alpha = \frac{3}{2}$, $\beta = \frac{5}{2}$ ゆえに $t = \frac{1}{4}$ である.



追加問題

1

(1) $xy + yz + zx = xyz$ の両辺を xyz ($\neq 0$) で割ると

$$\frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{z} = 1 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$0 < x \leq y \leq z$ より $\frac{1}{z} \leq \frac{1}{y} \leq \frac{1}{x}$ であるから

$$1 = \frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{z} \leq \frac{1}{x} + \frac{1}{x} + \frac{1}{x} = \frac{3}{x}$$

すなわち $1 \leq \frac{3}{x}$ よって $x \leq 3$

(2) x は自然数であるから, (1) より $x = 1, 2, 3$

[1] $x = 1$ のとき ① から $\frac{1}{y} + \frac{1}{z} = 0$

これを満たす自然数 y, z は存在しない。

[2] $x = 2$ のとき ① から $\frac{1}{y} + \frac{1}{z} = \frac{1}{2}$

$\frac{1}{2} = \frac{1}{y} + \frac{1}{z} \leq \frac{2}{y}$ より $y \leq 4$ で, $x \leq y$ であるから $y = 2, 3, 4$

$y = 2$ のとき, $\frac{1}{2} + \frac{1}{z} = \frac{1}{2}$ から これを満たす自然数 z は存在しない。

$y = 3$ のとき, $\frac{1}{3} + \frac{1}{z} = \frac{1}{2}$ から $z = 6$ ($y \leq z$ を満たす)

$y = 4$ のとき, $\frac{1}{4} + \frac{1}{z} = \frac{1}{2}$ から $z = 4$ ($y \leq z$ を満たす)

[3] $x = 3$ のとき ① から $\frac{1}{y} + \frac{1}{z} = \frac{2}{3}$

$\frac{2}{3} = \frac{1}{y} + \frac{1}{z} \leq \frac{2}{y}$ より $y \leq 3$ で, $x \leq y$ であるから $y = 3$

このとき, $\frac{1}{3} + \frac{1}{z} = \frac{2}{3}$ から $z = 3$ ($y \leq z$ を満たす)

[1] ~ [3] から, 求める自然数 x, y, z の組は

$$(x, y, z) = (2, 3, 6), (2, 4, 4), (3, 3, 3)$$

2

(1) 与えられた連立不等式から

$$A \begin{cases} x^2 + y^2 \leq 25 \\ y \geq 2x + 10 \\ y \leq -x - 5 \end{cases} \quad \text{または} \quad B \begin{cases} x^2 + y^2 \leq 25 \\ y \leq 2x + 10 \\ y \geq -x - 5 \end{cases}$$

求める領域は, A の表す領域と B の表す領域の和集合である。境界線の交点の座標は

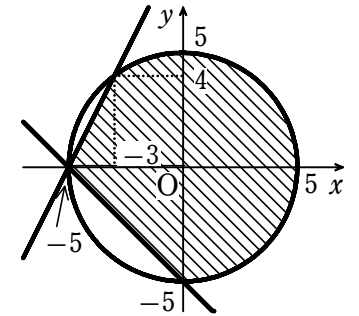
$$\begin{cases} x^2 + y^2 = 25 \\ y = 2x + 10 \end{cases} \text{を解いて } (x, y) = (-5, 0), (-3, 4)$$

$$\begin{cases} x^2 + y^2 = 25 \\ y = -x - 5 \end{cases} \text{を解いて } (x, y) = (-5, 0), (0, -5)$$

$$\begin{cases} y = 2x + 10 \\ y = -x - 5 \end{cases} \text{を解いて } (x, y) = (-5, 0)$$

したがって, 求める領域は, 図の斜線部分。

ただし, 境界線を含む。



(2) $x + 2y = k$ …… ① とおくと, ① は,

$$\text{傾き } -\frac{1}{2}, y \text{ 切片 } \frac{k}{2}$$

の直線を表す。

この直線が(1)の領域と共有点をもつような k の値の最大値と最小値を求めればよい。

k が最大となるのは, 図から, 直線 ① が第 1 象限で円 $x^2 + y^2 = 25$ と接するときである。

直線 ① に垂直で円の中心 $(0, 0)$ を通る直線の方程式は $y = 2x$ であるから, これと $x^2 + y^2 = 25$ を連立して

$$x^2 + (2x)^2 = 25 \quad \text{ゆえに} \quad x = \pm\sqrt{5}$$

第 1 象限で接するから $x = \sqrt{5}$ よって, 接点の座標は $(\sqrt{5}, 2\sqrt{5})$

また, k の値が最小となるのは, 境界線 $y = -x - 5$ の傾きは -1 で $-1 < -\frac{1}{2}$ である

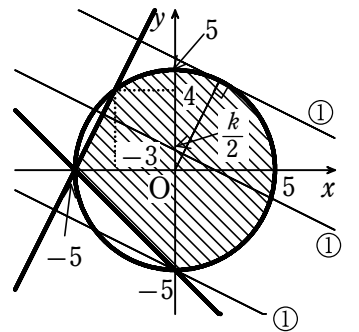
から, 直線 ① が点 $(0, -5)$ を通るときである。

したがって, $x + 2y$ は

$$(x, y) = (\sqrt{5}, 2\sqrt{5}) \text{ のとき最大値 } M = \sqrt{5} + 2 \cdot 2\sqrt{5} = 5\sqrt{5};$$

$$(x, y) = (0, -5) \text{ のとき最小値 } m = 0 + 2 \cdot (-5) = -10$$

をとる。



(3) $ax+y=l$ …… ② とおくと, ② は,

傾き $-a$, y 切片 l の直線を表す。

$A(-3, 4)$ とする。

l が点 A で最大となる時, 直線 ② は点 A における円の接線と直線 $y=2x+10$ の間 (一致する場合も含む) にある。

点 A における円 $x^2+y^2=25$ の接線の方程式は $-3x+4y=25$

すなわち $y=\frac{3}{4}x+\frac{25}{4}$

直線 ② が点 A における円の接線と一致するとき

$$-a = \frac{3}{4} \quad \text{すなわち} \quad a = -\frac{3}{4}$$

また, 直線 ② が直線 $y=2x+10$ と一致するとき

$$-a = 2 \quad \text{すなわち} \quad a = -2$$

したがって, 求める a の範囲は $-2 \leq a \leq -\frac{3}{4}$

